

一般社団法人 OSA ジャパン

日本のタネをケニアでカタチに

一般社団法人 OSA ジャパン / 会長
坂田 泉 / SAKATA Izumi



1. はじめに

一般社団法人 OSA ジャパン (以下、OSA ジャパン) は、日本とケニアに拠点を有するメリットを活かし、「日本のタネをケニアでカタチに」をモットーに、日本企業の持つ優れた技術、プロダクトのタネをケニアでカタチにする仕事を進めています。

ここでは、現在進行中のプロジェクトについて、私たちが、日本とケニアの間で、どのようなタネをどのようにカタチにしてゆくかという観点からご紹介します。



図1：教え子たちと
(1994年、JKUATにて)



図2：虹プロジェクト
「虹」は人と人、国と国の「間」の
無限の可能性を象徴しています

2. OSA 日本の成り立ち

OSA 日本の坂田は、日本近代建築のパイオニア、前川國男建築設計事務所に30年在職した建築家で、その在職中の1994年から一年間、独立行政法人国際協力機構(以下、JICA)派遣専門家として、ケニアのジョモ・ケニヤッタ農工大学(Jomo Kenyatta University of Agriculture and Technology、以下、JKUAT)において建築教育に従事した経験を持っています(図1)。2010年8月、坂田は、その経験を活かし、日本とケニアの間に虹を架けるような仕事をと、在日ケニア人建築家、Dick Olangoと「虹プロジェクト」を立ち上げ(図2)、翌2011年1月、その日本側活動拠点として、一般社団法人OSA日本を坂田を会長、Olangoを顧問という形で設立しました。同年5月には、国連大学研究員で開発経済の専門家であるケニア人エコノミスト、Emmanuel Mutisyaを同法人のチーフエコノミストとして迎え、2012年8月には、Olango、Mutisyaが、ケニア側の活動拠点、OSA Kenyaを設立し、現在に至ります(図3)。

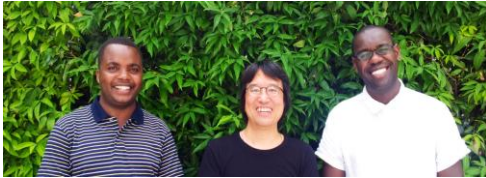


図3：OSAジャパン メンバー

左から

Emmanuel Mutisya (チーフエコノミスト)

坂田 泉(会長)

Dick Olango (顧問)

OSA
SOCIAL
DESIGN
GROUP

図4：ソーシャルデザイングループ OSA

坂田、Olango、Mutisyaは、それぞれの職能と広範なネットワークを活かしながら、日本とケニアにまたがる企業とのコラボレーションを進めています。

坂田は、建築家、JICA派遣専門家としての経験から、日本の住環境、エネルギー関連の民間企業、JICA等の行政機関、アフリカ関連NGOや、ケニア側では派遣専門家時代のJKUATの同僚、教え子、現在のJKUATとのネットワークを持っています。また、Olango、Mutisyaは、それぞれ建築家、国連大学研究員という職能から、ケニア側の住宅、建設、環境関連の民間企業、行政機関、学術・研究機関、NGO、国際機関(国連人間居住計画/UNHABITAT、国連環境計画/UNEP、国連開発計画/UNDP等)などとのネットワークを持っています。

こうした特色を活かし、OSAジャパンとOSA Kenyaは、ケニア社会に広く、深いネットワークを構築することにより、日本企業のインクルーシブな事業展開を支持するソーシャルデザイングループ、OSAとして、一体的に活動しています(図4)。

3.事例紹介

■事前打ち合わせ



■JICAナイロビ事務所



■民間企業：IT・通信機器サービス業 / 建設業



■NPO：都市の貧困層にローコストハウジングを提供する非営利組織



■ソーシャルファンド：アキュメンファンド ケニア事務所 / Acumen Fund Kenya Office



■民間企業：建材メーカー・乾電池メーカー



■教育・研究機関：ジョモ・ケニヤッタ農工大学 / JKUAT

